

京奈和自動車道（大和北道路） 環境影響評価準備書説明会の概要（2/9）

対象地域	：奈良市左京地区
日時	：平成18年10月 5日（木）19：30～21：10
場所	：奈良市立左京小学校
出席者	：10名

【主な質疑応答】

- 道路が高架で2層構造となるが、国道24号は交通量も多く80～100 km/h 近くで走行している状況。国道24号の交通による騒音や排気が高架に反射することは計算しているのか。国道43号線のようなことにならないか大変心配である。
 - 高架による裏面反射は考慮して予測しており、官民境界や背後地で適切に予測しています。
（準備書 p9-3-73 予測地点（左京）の断面図で説明。）
国道24号に2～2.5m、大和北道路に3mの遮音壁を設置します。
大気質は距離が離れると拡散するものであり、バックグラウンド濃度（周辺の平均的な濃度）に大和北道路からの寄与濃度を加え予測しています。（県）
- 遮音壁を高くして欲しい。市道1199号線を廃止して欲しい。清掃工場は廃止するとはっきり決まっている。総合的に国道24号と市道1199号を連携して断面を決め、かつ遮音壁を高くすることを検討してもらいたい。よろしくお願ひしたい。
 - 市道の問題は、担当の環境整備事業部や建設部で以前から協議しています。現段階では大和北道路と切り離して欲しいと考えますが、今後も対応は担当部局で続けていく予定です。（市）
- 遮音壁はもう少し研究してもらいたい。国道24号の音が横に抜けて相当音がすると思う。優秀な日本の技術で何とかして欲しい。
 - 遮音壁の高さは、将来予測交通量に応じて、現時点の知見に基づき決定しています。ただ、今後新しい知見や予測し得なかったことがあればその段階で対応します。（国）
- 地形及び地質（パンフレット p16）が気になる。左京に活断層があるのが非常に不安になる。
また、次の説明がいつ頃とか全体的なスケジュールを教えて欲しい。
市道1199号については市によく考えて欲しい。また清美センター跡地のアクセスはどうするのか考えて欲しい。今見せてもらっている図面は見せてもらいたい。
 - 活断層とは、地質学的に珍しい構造であり褶曲等が起こっているものです。活断層の考慮は、阪神・淡路大震災以降に耐震基準も見直されており、事業実施段階で耐震設計により対応していきます。
今後のスケジュールは、都市計画決定まで概ね2年と考えており、その後、事業化になれば測量や設計のための説明会を行い、用地買収等を進めていきます。また、完成の目標年次を示し、事業を進めていくこととなります。（国）
 - 説明会で使用した図面は、県庁と市役所で見ることができます。（県）

- 換気塔について、この地域に制約があると言われたがどのようなものか。南側は高さ30mで拡散されるが、北側は8mで排気ガスの拡散が心配。また、取り除く装置は南側と違うものなのか。どのようなもので、どこで使われているようなものか。
 - 北側の換気塔の周辺地域は第1種風致地区と歴史的風土保存区域、歴史的風土特別保存地区となっています。風致地区内の行為は許可が必要ですが、国若しくは地方公共団体が都市計画に適合して行う行為は許可不要であり、都市計画の手続きの中で確認されます。北側の換気塔は、第1種風致地区で高さ8mの規制がかかっています。南側は規制がなく、周辺の建物の状況から30mで計画しています。

大気質への影響は、北側、南側ともファンを設けて上空に吹き上げて拡散します。平均的には6 m/sで吹き上げ、平均風速2.4 m/sの風が吹いた条件で計算すると、上空約80mの高さに吹き上げ大気中に拡散する計画としており、寄与濃度も周辺の1/1000程度と極めて小さいと考えています。

換気塔には、パンフレットp6のとおり除じん装置や消音装置を設置します。また、トンネル内にはジェットファンを設け、坑口からの漏れ出しを防止します。(県)
- この地域は清掃工場に20年間悩まされた。換気塔の位置は変えられないのか。県境であり、県の北玄関であるという景観面での配慮が必要と思う。行政は説明会を進めてストーリー通り進めばいいと考えているが、住民の意向に対して少しでも聞いて欲しい。この道路は必要だと思う。これは県だ、市だ、国だと言わないで欲しい。

名古屋ではドーム式の遮音壁で音が出ない。お金をかけてでもいいもの、奈良らしいものを作って欲しい。計画は反対しないが、音がしないようにして欲しい。

 - 環境影響評価は、これまでの道路行政の反省から、事業を実施する前に事業による影響を予測し事業の計画にその内容を反映する制度です。例えば、遮音壁では環境基準を守るためには、高さが何m必要ですと示しています。事業を実施するにあたり、当然、事業者は環境影響評価の結果を踏まえて、事業を実施することになります。

換気塔は、事業実施段階で形状や色彩、デザイン等を今後検討していく予定です。(県)
- 景観の問題であるが、眺望景観は大切だと思う。しかし、生活者にとっては道路構造によって目の前の景観が変わる。眺望景観だけで身近な景観のことが抜け落ちていると思うがどうか。
 - 環境影響評価では、国等のマニュアルにより、不特定多数の方が見る眺望景観について予測・評価しています。

身近な景観については、住民の方が気になることは承知しています。身近な景観については、事業実施段階で配慮することになります。

他の事例では、高架構造の橋脚の圧迫感を少なくしたり、橋脚の間隔を開けたり、また遮音壁のデザイン等の検討を行っています。

今回の環境影響評価では、不特定多数の方が見る景観を対象としていますが、身近なところから見た景観は、今後の住民の皆様の意見を踏まえて検討していくものと考えています。(県)
- 意見だけ言わせて欲しい。

地下水の影響は季節変動に比べ小さいと判断しているが、研究者によっては予測でこのような判断はできず信憑性に欠けるという意見もある。対象道路が緩衝地帯を通ること、世界遺産委員会から日本政府に意見を出していること、これらを十分踏まえて文化財を壊さないようにして欲しい。